組織心理学・組織行動論

—個人と組織との新たなかかわり合い方とキャリア・マネジメント —

担当者名　　：　久村　恵子
研究室番号　　：　Q5008

1．プロジェクト研究テーマの設定理由と内容

近年、働く人々の多様化が一層進んでいます。一昔前の日本の職場で働く人と言えば、男性労働者をイメージしました。しかし、現在は女性労働者のみならず、高齢者、障がい者、さらには外国人労働者が共に働く場となりつつあります。当然、働く人々の価値観やライフスタイルも多様化し、組織も多様な働き方（＝キャリア）を求める人々を有効に活用するため、ダイバシティー・インクルージョンの実現を目指し、様々な試みに取り組みつつあります。

事実、働く場である産業社会全体、しいては産業社会を構成する多様な組織も急激な環境変化に適応するため、新たな雇用形態、構造、システム・制度を探索し、再構築し続けてきました。そのプロセスにおいて、働く人々の就労生活（＝キャリア）をめぐっても多様な問題が表出し、社会も企業もその解決に向き合っています。例えば、雇用形態の多様化は、人々の多様な生き方と働き方の実現を可能とする一方、不安定な状況で働く人々の増加、職場における知識・技術継承の困難さや人間関係の希薄化をもたらしました。また、仕事への「IT・AI」の導入や「能力・成果主義」の台頭も、仕事の能率向上とコスト削減を可能とする一方、職場での人間関係やコミュニケーションのあり方や、人々の精神健康やモチベーションに対する問題を生み出しています。

さらに近年、「働き方改革」の下、組織と働く人々は「働きやすさ」と「働きがい」の両輪が機能する仕事や職場とは何か、ワーク・ライフ・バランスの実現とは何かについての答え探しに取り組んできました。しかし、2020 年の新型コロナウイルス感染による緊急事態宣言は、リモートワークなどの新たな働き方への変革を組織と個人に容赦なく迫り、働くことの意味、組織と人との関係、そして組織の人事管理制度の再検討を迫ることとなりました。

このような問題に直面する組織にとって、解決へと繋がる適切かつ効果的に機能する組織構造、人事制度、上司や部下との人間関係のあり方、労働者一人ひとりの精神健康やモチベーションといったワーク・エンゲージメントなどについて議論することは喫緊の課題です。すなわち、組織は従来の「組織主導」の人的資源管理制度ではなく、「組織と個人が共に創る」人的資源管理制度を整えつつ、「組織と個人の新たな関係性」をより一層探索しなければなりません。そして、働く個々人に対しも自らが望むキャリアが得られやすい可能性が高まる反面、自らのキャリアへの責任を負うことが求められ、個人の視点からも「いかに組織と個人の関係を結ぶべきか」を探索する必要性が高まっています。

そこで本プロジェクト研究では、個人と共に、企業をはじめとする組織と社会の視点も考慮し、これらから望まれる「個人と組織の新たなかかわり合いのあり方」を探索していきます。言い換えれば、人々の職業人として軌跡である「キャリア」をキーワードとし、人々のキャリア形成の過程やその過程で直面する様々な問題・課題について、主として組織心理学・組織行動論の視点からアプローチし、時として心理学、社会学、経営学、法律などの視点も活用していきます。そして、皆さん自身にとっての「新しい個人と組織とのかかわり合いのあり方」を探索に繋がるよう、各自の関心、興味をもとに研究テーマを設定し、調査・研究を進めていきます。

２．プロジェクト研究の進め方

１）プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　(3 年次)では、前半では基本文献の講読とグループディスカッションにて基礎知識を習得し、後半ではグループ研究を行います。

① 基本文献の講読とグループディスカッション（主にプロジェクト研究Ⅰ）

キャリア発達の視点から個人と組織との関係性を理解するために必要な知識の習得を目的として基本文献を輪読します。事前にキャリア発達・組織心理学に関する文献を全員が読み、発表担当者は報告資料(レジュメやスライド)を用意し、発表します。また、コメンテーターは報告の進行、質疑およびグループ討議のテーマ設定を行います。それ以外の人も必ず事前に文献を熟読し、質疑・討議に参加することが求められます。

② グループ研究（主にプロジェクト研究Ⅱ・Ⅲ）

グループ(4～5 名程度)毎にテーマと問題意識を設定し、質問紙調査に基づく研究を行います。グループ研究は授業時間のみで完成させることは不可能なため、授業時間外にもグループで自主的に集まり、作業を進める必要があります。

2) プロジェクト研究Ⅳ～Ⅶ(4 年次)では各自の問題意識を踏まえテーマを決定し、卒業論文を作成していきます。

3) 評価は、報告・ディスカッションへの準備状況と参加態度、課題やレポート、報告書などおの提出物にて総合的に判断します。

３．プロジェクト研究のための前提科目および関連科目

１）総合演習については、原則、３年次のＱ２に開講される「総合演習Ｂ（担当：久村)」を履修してください（やむを得ない理由で履修が難しい場合には相談してください)。

総合演習Ｂでは、組織や働く個人が直面するキャリアに関する問題についてより具体的な文献を読み、討議すると共に、実務領域で使用されている心理測定道具を体験し(心理測定ツールの購入費用として￥1,500～¥2,000 が必要、一部の測定道具はプロジェクト研究Ⅱで実施します)、心理学上の概念や心理測定尺度の構造や調査への理解を深め、秋学期のグループ研究への準備を進めます。

２）このプロジェクト研究を希望する場合、いずれのコースを履修しても構いません。
ただし、以下の科目について履修済みもしくは履修することを望みます。

産業心理学、組織行動論、人的資源管理論、労働経済論、経営学概論、政治・経済の諸相、社会の諸相、などの「組織と人に関わる科目」。そして、グループ研究の際に必要となる統計学、統計解析、社会調査法、数量的アプローチといった科目。

４．プロジェクト研究開始までの準備

組織心理学・組織行動論を学ぶ上での基礎知識を習得するために、予備登録決定者には文献資料と課題を配付します。プロジェクト研究の開始時までに必ず各自で文献を熟読し、課題の作成が必要となります。

５．その他

本プロジェクト研究を希望する皆さんには、皆さん自身がプロジェクト研究を「動かす」立場にあることを自覚し、自らが積極的に問題を見つけ、考え、調べ、論じる意欲を持っていることを強く要望します。そして、メンバーによる自主的な運営を重視しているため、合宿や懇親会などの授業時間外の活動の企画・実施については、プロジェクト研究のメンバー全員に委ねています。そのため、受け身の姿勢ではなく、何事にも積極的に協力でき、前向きに参加し、メンバーと共に色々なことを面白いと感じ、楽しみ、チャレンジしようとする学生の参加を希望します。

６．選考方法・日程

＊　面接（状況により対面またはオンラインで実施）と以下の書類により選考を行う予定です。

①　第1次予備登録時に提出する「志望動機」（大学所定用紙）
②　「エッセイ」（900 字程度）

＊　最終的な選考方法エッセイのテーマや提出方法、面接の日程調整の手続きや面接方法など）の詳細情報についてはプロジェクト・アワーにてお伝えします。

＊　なお、プロジェクト・アワーの日程については後日お知らせします。

以上